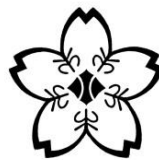


生地っ子

〔育てたい子供像〕

「かんがえる子」「はげましあう子」「ねばりづよい子」



3号

黒部市立生地小学校

令和7年6月27日

やってみないと分からない

校長 斉藤 康

6月8日(日)には、わんぱく相撲名水場所がありました。生地小学校で出場した選手は昨年度の2倍。昨年度も参加した6年生1名と初めて参加した3年生1名、合わせて2名の参加です。初めて参加した3年生の選手は、1試合目で敗退し敗者復活戦に挑みました。敗者復活戦の1試合目、相手を突いて押していきます。足も前に出てそのまま土俵から押し出し勝利しました。次の試合では負けてしまい、彼の大会は終了しました。しかしながら、勝利する戦いを自分自身で彼は一つ手にしました。どんな気持ちだったのでしょうか。初めて挑む大会で不安もいっぱいだったと思いますが、チャレンジした勇気を讃えたいと思います。さて、6年生の選手はなんと準決勝まで勝ち上がりました。準決勝では負けてしまい、敗者復活戦に挑みます。順調に勝ち上がり敗者復活戦の決勝です。これに勝てば3位です。立ち合いから踏み込み相手の胸に頭を付ける彼の型になりました・・・が攻めきることができず、負けてしまいました。負けた後の彼の表情は昨年之苦い顔ではなくすっきりした顔をしているように見えました。律儀な彼は取組が終わった後、挨拶に来ました。「頑張ったね」と声をかけるとさわやかに「頑張りました」と答えてくれました。彼はきっと昨年の取組に納得いかず、これまで精進してきて迎えた今場所、自分の力を出し切れたのだと思いました。何だか私もさわやかな気持ちになりました。何でもそうですがやってみないと分からないことだらけですよ。果敢にチャレンジした彼らには、今回の経験が今後の成長の糧となることは間違いありません。生地小学校の子供たちには様々なことにチャレンジしてくれることを期待しています。そして私たちは、頑張る生地小の子供たちを見守り、応援していきます。

※「わんぱく相撲名水場所」に出場した児童の保護者の方には掲載の承諾を得ております。

頑張っている子供たち ～清掃活動～

6月中旬、先週まで5・6年生の宿泊学習等があり、校舎内の清掃ができませんでした。1週間ぶりの清掃だったので、ごみや汚れが多く見られました。私は「汚いところの清掃を子供たちは、いやがるかなあ」と思いながら、清掃時間中に校舎内を見て回ると黙々と清掃に取り組んでいる子供が多いことに感心しました。低学年の中には「こんなにたくさんごみが取れた」と言って、少し誇らしげに見せてくる子供もいました。校舎を磨くそして自分を磨く大切な活動なのだと改めて感じました。



頑張っている子供たち ～プール掃除～

6月27日（金）のプール開きにめがけて4～6年生の上学年でプール掃除を行いました。プールの水を抜くとやはり、泥がプールの底にたまっています。その泥がヌルヌルしていてさらに堅い。プールの側溝には針葉樹林の葉やら泥がいっぱい。プールの側面や底はスポンジたわしでゴシゴシ磨きました。（私も磨いていましたが、腕がぱんぱんになります）側溝の葉等はチクチクして痛いのを我慢しながら集めました。2時間ほどかけてみんなが入れそうなきれいなプールになりました。この後、プールに水を溜め、水泳に適切な水温になるよう調整します。自分たちがきれいにしたプールで大いに水泳学習を楽しんでほしいと思います。



【掃除中・・・まだどろどろです】



【掃除後半・・・だいぶきれいになってきました】

頑張っている子供たち ～そろそろ1学期のまとめです～

1学期もあと一ヵ月足らず。何がどこまで身に付いたかな。その確認のためにテストやプリントが多い時期になってきました。（中学校でも期末考査の時期ですよ）多くの子供たちは真剣に問題と向き合い、「何とか解こう」と一生懸命です。この1学期で多くのことや大切なことが分かったり身に付いたりしていることを子供自身が感じてほしいと思っています。そう感じられるようテスト等の結果を踏まえながら、それぞれの子供に言葉をかけていきます。



頑張っている子供たち ～社会性を育てる場でもあります～



子供たちには「よりよく成長してほしい」と願っています。その「よりよく成長」の中には様々なことがあると思いますが、「社会性を身に付ける」ことも重要なことだと考えます。（私自身は最重要課題だと考えています）近年の子供たちの様子を見ていると、他の人とうまく関われない子供が年々多くなっているように感じます。マウントをとろうとする子供の多いこと多いこと。授業中は担任の先生が指導してくれます。休み時間も人間関係で困った場面になったら担任の先生が駆けつけて互いの話を聞きながら、互いの誤解を解いたり、落としどころを見付けさせたりします。左上の画像は昼休みに子供たちがドッジボールのチームやルールを決めようとしている場面です。それぞれの思いを言い合っていました。どうなるか様子を見ていましたが、最後は折り合いを付けてドッジボールを始めました。私は「自分たちで自分たちのことを解決できた。成長しているなあ」と思いながら心の中でその子供たちに拍手していました。